

歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会

第101回 8月25日(土) 10:00~ くらしの植物苑内
「変化朝顔の世界」 仁田坂英二 (九州大学大学院)

第102回 9月22日(土) 13:30~ くらしの植物苑東屋
「江戸の果物」 原田信男 (国土館大學)

今週の見どころ <http://www.rekihaku.ac.jp> 毎週木曜日更新



一江戸を咲かすー「伝統の朝顔」展

天候不順が影響してか、朝顔の花の咲き方が遅いようにおもいます。



黄蟬葉栗皮茶丸咲



青渦蜻蛉捻葉藤鼠色丸咲



青斑入小型並葉紫捻梅咲小輪



青丸葉赤紫覆輪丸咲



青水晶斑入立田は紫時雨絞咲分



青常葉紺覆輪石畳咲

今年朝顔の色・朝顔の模様のコーナーを設定し、朝顔の色の発現の仕組みや、花の色が変わっていく理由、模様につけられた名前を知っていただけます。2005年に当苑で発見された、がくだけの朝顔(無弁花:突然変異体)も咲き始めてきました。午前中には、栽培担当のものが解説をさせていただきます。お声をかけてください。8月21日(火)から26日(日)は開苑時間を8時にいたします。

オオボウシバナ (ツユクサ科ツユクサ属)

ツユクサ(アオバナ、ボウシバ)の変異種で花が特に大きい。鑑賞用や染料用に栽培されています。青色色素のコンメリニンを含む花の汁で染めた青紙は、友禅の下絵の具に使われます。朝早く、雄しべの花粉を取り払い、花びらだけの汁をしぼり和紙に浸み込ませ、天日で乾燥させます。



越前白茎葉ゴボウ (キク科ゴボウ属)

2年もののゴボウの花です。普通食べているゴボウと違い、生育前期の若い茎を食べる種類です。若い頃の葉は淡緑で太く伸びます、葉を除いた茎と根を油いためやてんぷらなどにします。



オオガハス 大賀蓮 (ハス科ハス属)

地下に横にはう根茎を持つ大型の多年生挺水植物です。今年、東京大学緑地研究所よりオオガハスの地下茎を譲り受け、栽培しました。これは1951年に大賀一郎先生が東大総合運動場(千葉県検見川)の地下青泥層より発掘した果実を発芽させて得られた系統です。



到着したオオガハス



7月28日



8月1日

イチビ (アオイ科イチビ属)

インド原産で繊維をとる1年草。近年はほとんど栽培されてはいません。苑で栽培しているものも、野生化したイチビを採集したことに始まります。葉は大きな心形で先がとがり、桐の葉に似ます。完熟したら抜きとり、乾燥し、水につけて腐敗・発酵させて茎の表皮の下の韌皮繊維をとります。繊維は粗くもろいので単独では使いません。



トチノキの蟬の抜け殻

トチノキのおおきな葉を見上げていたら、蟬の抜け殻がたくさんついていました。

伝統の朝顔は東屋、正木温室、出物温室です。

